

編集後記

「現代中国」を特集とする機会は久しぶりであるが、「民族」と「民俗」をキーワードとしたのは、1992-1993年に「外国人特別研究員」として筑波大学に滞在した時、「民(族)・民(俗)コース」を傍聴した記憶が思い出されたからである。民族学(文化人類学)と民俗学とを対照させながら、両方が互いに補う可能性を意識する研究者を育成しようとするこの発想は素晴らしいものだと思います、以来、その影響から自分の学問も似た道を歩んできた。早くも26年経ったが、還暦を経験してから、さらに加速するかのように世の中の移り変わりが常に意識され始めた。知らないうちに、名古屋キャンパス周辺は工事現場から立派な繁華街へと変身したのである。この国際的でおしゃれな都市空間に相応しい都市大学のキャンパスには、閉塞感の少ない雰囲気が醸成されつつあり、この場所との御縁もうれしいかぎりである。国際コミュニケーション学部では、比較文化学科より国際教養学科へ名称が変更され、多少想定外とは言え、徐々に慣れつつある。唯一変わらないのは『文明21』における「多様性」の伝統である。「多様性」の共存は21世紀の精神とは言ったものだが、我らの『文明21』は、まさにこの「多様性」の伝統を堅持し、さらに活性化すべきであろう。(ZX)

文明21 愛知大学国際コミュニケーション学会紀要

※愛知大学国際コミュニケーション学会発行の『文明21』に掲載された論文などすべての著作権は、愛知大学国際コミュニケーション学会に所属します。

2018年12月15日 印刷
2018年12月20日 発行 第41号

編集発行 愛知大学国際コミュニケーション学会

〒453-8777 名古屋市中村区平池町四丁目60番6
TEL(052)564-6128 FAX(052)564-6228
E-mail:aic@vega.aichi-u.ac.jp URL:http://ic.aichi-u.ac.jp/

印刷所 株式会社クイックス